

2002-3 香港冬期
クロツラヘラサギの年齢構造分析

香港特区政府農、漁業および保護部計画報告
調査団体 香港観鳥会

(Ho Fai Cheung, Lousis Y. Cheung, Forrest K. W. Fong Anthony K. M. Lo,
Dickson C. C. Wong, Yat Tung Yu)
香港観鳥会 余日東 執筆・訳 福井和二
(図表については原文を参照)

背景

香港特区政府の農・漁業および保護部の助成により、香港観鳥会は2002年から03年の冬季、香港米浦蘭姆薩湿地地区における越冬クロツラヘラサギの年齢層の分析調査を行った。

目標

この計画は、米浦において越冬するクロツラヘラサギを長期にわたって継続的に観測をして、年齢を調査し、推測することができれば、世界における絶滅危惧種の保護のため重要な指標となる。

方法

年齢測定

クロツラヘラサギの成鳥および幼鳥の最も明確な識別は翼端の黒色部分で、幼鳥は成育するにたがって次第に翼端の黒色が白色に変化する。しかし、飛び立たないクロツラヘラサギの翼端の色を識別することは困難であるが、飛び立つのを待って幼鳥・成鳥の識別ができ、これを写真撮影することにより記録し、成鳥・幼鳥の数量的分析ができるのである。この方法により数年にわたり、米浦地区で観察を継続している。

調査時間および場所

野外観察は2002年10月下旬から2003年4月まで、月3～4回、合計20回観察した(表1)*。毎月連続3回の調査中、少ない時でも30羽以上のクロツラヘラサギを記録した。

米浦において野外調査した場所は、第2、6、8、16/17、20および23号池で、これらはクロツラヘラサギの調査期間中、活発に行動する棲息場所である。2002年10月1日から2003年3月15日までの間、調査地点をさらに、港灣地区の多くを含む Tsim Bei Tsui 地区を加えた。図1に調査地点を示す。

結果

本期のクロツラヘラサギの記録第1羽は2002年10月16日であったが、正式に調査が開始されたのは10月26日であり、この日は写真による記録は行われなかった。本期の写真撮影記録は11月5日が初回である。2002～03年冬季のクロツラヘラサギの観察は延べ1068羽で、毎回の調査で得られた成鳥と幼鳥の比率は表2に示す。毎月、撮影されたクロツラヘラサギの総数は139(2003年4月)から251(2002年12月)と不同であった。12月の観察数が高いのは4回の調査によるもので、他の月は3回の調査のためである。毎回のクロツラヘラサギの写真撮影記録は56+19(SD)。

幼鳥の比率は11月(46%)から2月(29%)と下降しており、その後4月(70%)と上昇している。2002～03年冬季の幼鳥の平均比率は39+16%である。この結果から、成鳥は3月末から4月初旬の間に米浦を離れるので幼鳥の比率が高くなるものと見られる。4月のデータを除外すれば幼鳥の比率は37+13%で、成鳥の比率は63+13%となる。

討論

本年度のクロツラヘラサギの観察累計は1068羽と記録され、前1年(915)のより14%増加した。これは調査方法の熟練と加えて飛行行動を熟知し、さらに、写真撮影をする人員が増加したことによる結果と、また、本年度からTsim Bei Tsui地区を観察範囲に加えたことによって香港における越冬クロツラヘラサギの全てを観察することとなり、成鳥と幼鳥の比率を一層正確に表わすことができた。

2002~03年の越冬クロツラヘラサギにおける成鳥の比率は63+13%で、2001~02年の同じ結果と比較して少ない(前年の成鳥は69+13%)(図2)。ただ、その差は顕著ではない。しかし、2001~02年度の成鳥比率は調査以来最高の数値である(表3)。

しかしながら、2002~03年のクロツラヘラサギの最高数は258羽(P. J. Leader私信)で、2001~02年の最高数(192羽)に対し34%上昇した。クロツラヘラサギの成鳥比も小幅な増減があるが、その差は顕著ではない(表4)。

個体群動態

2001~02年の調査による全世界のクロツラヘラサギの推計は1185羽(Anon 2002)。2003年1月の全世界のクロツラヘラサギの調査結果は1068羽で、この冬季には台湾においてポツリヌス菌中毒事件があり、73羽が死亡している。これを加えるならば、総数は1142羽となり、推測値と近い数になる。中毒事件発生はあまり問題とならない(違いは90~96%)が、しかし十分に注意する必要がある。この推測の根拠は、若干実証を経ないまま仮設したものであるが、各越冬地区の年齢比はみな同様で、死亡率は調べられていないが、その性別比率も同様である推測される。

2002-03年冬におけるクロツラヘラサギの成鳥の比率は63%で、今まで度々調査してきたデータによれば53~69%の間であったから、過去5年間の成鳥と幼鳥の比率は安定を保っている。今までに知られているクロツラヘラサギの数は、1990年代の約294羽から2003年の1068羽までまるまる3倍以上増えたことになり、成鳥の比率も安定していることは、この鳥の過去何年かは繁殖の状況が非常に良好であったことを示している。

将来の研究に提案

●香港における越冬クロツラヘラサギの成鳥・幼鳥比を長期にわたり調査する。

この撮影による観察は米浦における越冬クロツラヘラサギの成鳥・幼鳥比の調査を、5年間継続してきた方法である。その結果は国際的なクロツラヘラサギの調査結果とよく一致していた。したがってこの方法による調査は価値があり、世界の稀少鳥類の趨勢を知る一助となろう。

●その他この区内での越冬鳥類に対し、類似の調査を行ない比較検討する。

個体群の年齢構成および分布状態は一様ではなく、この詳細を実証しようとするために、他の重要なクロツラヘラサギの越冬地、例えば曾文溪河口、紅河口および日本等で、この種の方法を用いて調査を行うことは、それぞれの地域で得られた数値を相互に比較・分析することはさらに重要なことで、その他の越冬地域でも当然応用すべきである。

摘要

2002~3年の米浦におけるクロツラヘラサギの年齢構成調査は、越冬群の成鳥と幼鳥の比率を明らかにすることを目的とし、002年11月から2003年4月まで、累計1068羽のクロツラヘラサギを調査し、成鳥は63%であり、前数年の調査による範囲53~69%と比較して、特別の変化はなかった。